

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 26 年 7 月 17 日			
所属学部・研究科	法学部 3 年次 (留学開始時点)			
留学先大学	ネバダ大学リノ校 IELC (国名: アメリカ)			
所属学部・学科等名				
在籍身分	交換留学生			
留学期間	平成 25 年 8 月 22 日 ~ 平成 26 年 5 月 12 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: F-1			
	ビザ申請先: 米国総領事館 (大阪)			
	取得方法, 提出書類: : パスポート、派遣大学先からの I-20, オンラインでの面接予約証明書、預金残高証明書など。これらを持参して面接。			
	手続きに要した日数: 二週間程度			
その他必要な事前手続き				
出国年月日	平成 24 年 8 月 16 日			
経路	関西国際空港→韓国インチョン→サンフランシスコ→ネバダ			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	学期が始まる前に二日間、オリエンテーションとクラス分けのテストが行われる。			
帰国年月日	平成 26 年 6 月 6 日			
経路	ネバダ→ロサンゼルス→サンフランシスコ→韓国インチョン→日本関空			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	159 万	円	
	内訳	渡航費	20 万	円
		保険料	13 万	円
		教科書代(学費)	6 万	円
		宿舍費	50 万	円
		食費	30 万	円
		その他 (旅行 費)	30 万	円
その他 現地で調達した衣服、生活用品など	10 万	円		
3. 授業について				
2013 年 秋 学期	8 月 22 日 ~ 12 月 13 日			

2014年 春 学期	1 月 21 日 ~ 5 月 9 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	Intensive Language Center (LAD, HAD) Marketing 210
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	最初は授業でもわからないことが多いと思うが, クラスメイトに相談したり先生に確認するなどして, 一つ一つ確実にこなしていくことが大切。
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 m ² 同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (1人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input checked="" type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()
住居費	1ヶ月当たり \$500 (現地通貨) 約 5万 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に関するアドバイス	アメリカはご飯がおいしくないので自炊ができる所をお勧めする。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	年間 13万 円 補償額 死亡 円, 入院1日 円 その他 ()
留学前後での予防接種 の必要の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	日本で受けたことのある予防接種の記録を英文にして持っていくことで, 現地で受けなければならない予防接種の数を減らすことができる。
日常的な健康について 不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	病気になればまずヘルスセンターに行くことをお勧めする。医療費も高額でなく、保険がきくので。

留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	食事が偏りやすいので野菜や果物を積極的に取ることを心掛けた。また適度に体を動かすことも大切。	
(3) 危険を感じた地域、状況		
リノでは危険を感じたことはない。しかしロサンゼルスなど他の地域では、一つ道路を超えただけで雰囲気が変わり危険なことがあるので旅行の際には気をつけた方がよい。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
日本から薬は一通りもって行った方がよい。留学生の活動をサポートして下さるクリスチャンの方々がいる。キリスト教を強要されることはあまりない。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 28 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 27 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input checked="" type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	就職予定	
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	ボストンキャリアフォーラムに参加。しかし内定を得ることはできなかった。大学の授業と並行して就活の準備を進めることは厳しく、本当にここで内定を取ろうと思うならば相当な準備が必要だと感じた。	
6. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等		
書籍、サイト名	詳細 (出版社、URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
ネバダ大学には日本人もたくさん在籍しており、彼らとの関係を心配する人もいるかもしれないが、大切なのは距離感。彼らと仲良くなることで、他の国の留学生や現地の学生とのつながりも増えるので。また一年はとても短い。留学前にしっかりと計画と目標を立てることが大切である。		

学習の概要に関するレポート

私はUSACプログラムを利用しネバダ大学リノ校IELCに留学した。本心としてはHUSAプログラムを利用し、語学学校ではなく大学へ留学したかったのだがTOEFLの点が足りなかったため、また留学当時三年と後がなかったため本プログラムを利用し留学することを決めた。IELCの授業がどのようなものだったかについては他のレポートで詳しく記載されているので、本レポートでは実際にこのプログラムを利用しどのように学習を進めたかについて述べていきたい。どのような留学生活を送るか考えるうえで参考になればうれしい。

IELCではまず現地に到着すると四つのレベルに分けるためのクラス分けが行われる。私はListening/Speaking (LS)はLA(上から二番目)、Writing/Reading (WR)はHA(一番上のクラス)に決まった。しかしこの両者の違いはとても大きく最初の数か月はHAの授業についていくのに必死だった。HAは次の学期から大学に進む生徒のためのクラスになっているため、内容もより学問的で生徒のレベルも他のクラスとは格段に異なる。留学当初ネイティブの会話を聞き取るのにも苦勞していた私は、授業後クラスの友人をつかまえては授業内容を確認し復習。宿題も膨大な量だったため、毎日図書館に12時まで通い詰める日々が続いた。このように最初の一学期は宿題に追われ多くの時間を図書館で過ごした。しかしこの一学期間のおかげで、冬休みごろから英語力の向上を実感できるようになってきた。

後期はIELCの授業に慣れてきたため、より余裕をもって生活することができた。そこで後期はより積極的にイベントに参加、友人と多くの時間を過ごすことで会話機会を増やし、リスニングとスピーキングの向上を図った。IELCは様々なイベントを開いてくれるので、このイベントをきっかけにより多くの国の人と交流することができた。IELCの魅力は本当に多様な国、バックグラウンドを持った人と交流することができることである。私が在籍していた当時は、世界26ヶ国100人以上の生徒がいた。中国人のパイロットの方やコスタリカで社長をしている方など様々な人が在籍し、彼らの人生経験を聞くことはとてもためになった。またそれだけでなく、IELCで仲良くなった友人からその友人へとつながり、交際関係の幅が広がるので学部生として留学した友人よりも、多くの人脈をもっていた。また後期では大学で行われる授業も取ることができた。授業料はIELCで開かれる三つのクラスのうち、一つを大学で行われる授業と交換することで、抑えることができる。

結果的に私は英語力の向上、異文化交流という二点からは大学へよりもIELCに留学してよかったと感じている。学部生として留学している友人の中には授業の予復習に追われ、現地の学生と交流する機会が少なく英語を話す場が少ないと言って、IELCにいることを羨ましがられることもあった。またアメリカでは授業を通して仲良くなるのが難しいため、なかなかネイティブの友人を作れないと悩んでいる方も多くいた。英語力の向上、異文化交流に比重をおいて留学を考えている方は、USACの利用も選択肢の一つとして考えてもよいのではないだろうか。



生活の概要に関するレポート

本レポートでは寮での生活について述べていきたい。

まず私が入寮していた場所についてだが、前期はシエラホール、後期はカナダホールに住んでいた。シエラホールは昔ホテルだった建物を改装したもので、各個室にルームメイトと二人で住むというものだった。しかしやはりホテルのような構造な分、他の学生との交流は他の寮と比べても少なかったように感じる。また個室である分、ルームメイトと相性が合わなければ苦勞するかもしれない。またこの寮は基本的に20歳以上、または大学で一年間過ごした生徒が入寮できる制度だったため、比較的落ち着いた寮だった。一方後期から入寮したカナダホールは三つの個室とリビングを六人でシェアする形だった。この寮も20歳以上、大学二年以上の生徒のための寮だったが、シエラホールと比べると皆で飲んでる学生も多く、またイベントも盛んで活気づいた寮だった。

次に寮の生活についてだが、一言でいうと前期は外れ、後期は当たりだった。前期はルームメイトが女の子の恰好をするゲイの方だったため、彼の生活に戸惑うことが多く、喧嘩をすることも多かった。今考えると日本では経験できない文化を直で知ったという点では良い経験だったが、留学当初慣れない生活の中、彼と過ごすのは苦勞することも多かった。そのため私は後期から別の寮に移る届出を出した。私は運よくカナダホールに移ることができたが、この寮はとても人気であるため申請を出すならば早めに行った方がよいだろう。後期からは多くの友人に恵まれた。私の部屋はアメリカ人3人と韓国人の留学生、私の5人で構成されていた。彼らは以前にも広島大学からの留学生とルームメイトであったため、留学生であった私と韓国の生徒をよく気遣ってくれた。また反対側の部屋の生徒達とも皆仲が良かったため、よく一緒にお酒を飲み、テレビでスポーツ観戦をするなどして親交を深めることができた。より多くの方と知り合えば知り合うほど、交流範囲だけでなく行動範囲も広がる。そうすることでよりアメリカの文化を体験できる。この点は個室よりも大人数で生活できる寮の利点である。

最後に寮の食生活についてだが、私は留学前にミールプランは高くておいしくない聞いていたので外していた。私は留学当時21歳とアメリカでいう成人だったため簡単に外すことができたが、21歳以下の友人は交渉が必要で人によっては外せない生徒もいた。食堂へは友人に連れられて行くこともあったが、私はこのプランを外して正解だったと考えている。前期は外食中心であったが、友人のアパートで料理を作ることもあったため、ミールプランを取るよりは費用を抑えることができた。後期はカナダホールでキッチンが付いていたため、ほぼ毎日自炊をしていた。自炊は大変だったが、キッチンがあるということで、他の生徒と料理を作ることも多く、ここで仲良くなることもできた。先輩の中には留学時20歳でもミールプランを解除できた人もいたので、やってみる価値はあると考えられる。

日本で生活していると他人と部屋を共有する寮には躊躇してしまいがちだが、ここでしかできない経験も多々あるので、ぜひ思い切って挑戦してみしてほしい。

